

「中学入試の動向」

柴山義塾 さかべ知能教育 塾長
坂部 芳子

中学入試問題の動向

2017年度の中学入試問題には、大きな変化が見られた。

- 2020年に変わる大学入試制度を意識して、中学入試も変わりつつある。
- 新大学入試制度で求められている「学力の三要素」を視野に入れた問題が出題されている。
- すでにある知識だけで解けるという問題ではなく、与えられた課題文からヒントを探し、答えを導くというような問題が増えている。
- 受験生の「思考力」をはかるための工夫がなされ、いかに創造力豊かに思考できるかをみている。
- 与えられた課題に対して論理的に考え、自分の考えを記述する問題が増えている。

学力の三要素

<学力の三要素>

- 知識・技能

- 思考力・判断力・表現力

知識・技能を活用して、自ら問題を発見し、その解決に向けて探求し、
成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力

- 主体性・多様性・協働性

主体性をもって、多様な人々と協働して学ぶ姿勢

新しいテストの問題

<キーポイント>

国語

- 提示された情報を順序立てて整理する。
- 話の中心をとらえた上で自分自身を表現する。
- 話のつながりをとらえながら、論理的に思考する。
- 作問者の意図に沿って、話の中心を自分のこととしてとらえる。

算数

- 情報の中から、条件に沿うものを活用する。
- 条件の変化に着目し、視点を変えてとらえる。
- 与えられている情報を整理し、新たな情報を生み出す。
- 定理の意味を理解し、論理的に表現する。

社会

- 情報を整理して、知識を正確に使いこなす。
- 図・表を正しく読み取り、知識をつなげて類推する。
- 与えられている情報から類推していく。
- 様々な出来事に対して、柔軟に考えていく。

理科

- 実験の意味を考えて、必要・不必要な数値を判断する。
- 文書からの情報と生活体験を結び付けて考える。
- 総合的な力（読解力・知識・計算）が問われる。
- 情報を整理し、意味することを考察して、それぞれの関係について理解する。